

・海外感染症流行情報 2025年12月

(1) 全世界：インフルエンザの流行状況

アジア、ヨーロッパ、北米など北半球の温帯地域でインフルエンザの早期流行が発生しています（WHO global influenza program 25-12-25）。ウイルスの種類は A (H3N2) 型が大多数で、サブクレード K と呼ばれる変異株が主流になっています（WHO Disease outbreak news 25-12-10）。このウイルスは病原性に変化がなく、ワクチンによる重症化予防効果も従来のウイルスと同等とのことです。

(2) 全世界：COVID-19 の流行状況

12月は世界的に COVID-19 の流行が収束状態にあります（WHO COVID-19 dashboard 25-12-7）。検出されているウイルスの種類は、欧米では XFG 型が多く、日本などアジアでは今年夏に流行した NB.1.8.1 型が引き続き多くなっています。また、22年に流行した BA.3 系統のウイルスがやや増加しており、WHO は監視を強めています（WHO Tracking SARS-CoV-2 variants 25-12-5）。北半球の温帯地域では、年明けから COVID-19 の流行が再燃する可能性があり、引き続き注意が必要です。

(3) アジア：デング熱の流行状況

東南アジアでのデング熱の流行は収束に向かっていますが、マレーシアやインドネシアなどでは媒介蚊の多い季節が続くため注意が必要です。（WHO 西太平洋 25-12-11）。なお、米国 CDC の報告によれば、25 年はアジア太平洋地域の中でも、ベトナム、フィリピン、サモアで患者数が例年より多かったとのことです（米国 CDC Traveler's Health 25-12-23）。

(4) アジア：中東での MERS の流行状況

25 年は MERS (中東呼吸器症候群) の患者が世界で 19 人発生し、4 人が死亡しました（WHO 25-12-24）。このうち 17 人はサウジアラビアで発生しており、首都リヤドからの報告数が 10 人と多くなっています。また、11 月にフランスから中東に渡航した旅行者 2 人が、帰国後に MERS を発病しており、滞在中、ラクダに接するなどのリスク行為のあったことが確認されています。

(5) アフリカ：エチオピアでのマールブルグ熱の流行

エチオピア南部で発生しているマールブルグ熱の流行は 12 月も続いており、患者数は 17 人で、このうち 12 人が死亡しました（ヨーロッパ CDC 25-12-19）。エチオピアには日本からの直行便が就航しており、同国を観光などで訪れる際は、流行地域である南エチオピア州には立ち入らないように注意してください（外務省海外安全ホームページ 25-11-18）。

(6) ヨーロッパ：東欧での A 型肝炎の流行

今年になりチェコ、スロバキア、ハンガリーなどの東欧諸国で A 型肝炎の患者数が増加しています（ヨーロッパ CDC 25-11-28）。患者はホームレスやジプシーなど貧しい人に多く、10 月までに 6000 人以上の患者が発生したとの報告もあります（ProMED 25-11-30）。こうした国々に日本から渡航する際には、A 型肝炎ワクチンの接種を受けることをご検討ください。

(7) ヨーロッパ：フィンランドでダニ媒介脳炎の患者が増加

北欧のフィンランドでダニ媒介脳炎の患者数が増加しています（ProMED 25-12-5）。25 年は 11 月までに 227 人に上っており、首都ヘルシンキ近郊などでも患者が発生しています。ダニ媒介脳炎のワクチンは日本でも販売されており、同国への渡航者で野山に立ち入る機会のある人は、出国前にワクチン接種を受けておくことを推奨します。

(8) 北米：米国で鳥インフルエンザの患者が発生

米国ワシントン州のシアトル近郊で、11 月に鳥インフルエンザウイルス H5N5 型の患者が 1 名発生し、死亡しました（WHO 25-12-5）。H5N5 型のヒトへの感染は今回が初めてのケースで、家禽から感染したと推測されています。

・日本国内での輸入感染症の発生状況（2025年11月10日～12月7日）

最近 1 ヶ月間の輸入感染症の発生状況について、国立健康危機管理研究機構・感染症情報提供サイトの感染症発生動向調査を参考に作成しました。<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/jp/idwr/2025/index.html>

(1) 経口感染症：輸入例としては細菌性赤痢 1 人、腸管出血性大腸菌感染症 17 人、腸チフス 2 人、A 型肝炎 2 人、アメバ赤痢 1 人が報告されています。腸管出血性大腸菌感染症は前月（23 人）より減少しましたが、韓国での感染が 12 人と多くなっています。

(2) 節足動物が媒介する感染症：デング熱は 10 人報告され、前月（13 人）と変化ありませんでした。感染国は上位はインドネシアとベトナムの各 2 人でした。マラリアは 1 人（エチオピアで感染）、チクングニア熱は 1 人（スリランカで感染）、ジカウイルス感染症は 1 人（フィリピンで感染）、ライム病は 1 人（ドイツで感染）、ツツガムシ病は 1 人（ネパールで感染）でした。なお、今年（49 週まで）と昨年同期の累積患者数を比較すると、デング熱は今年 160 人で昨年（224 人）より減少、マラリアは今年 22 人で昨年（45 人）の半数に減少、チクングニア熱は今年 21 人で昨年（10 人）の 2 倍に増加しています。

(3) その他の感染症：麻疹の輸入例が 7 人報告されており、前月（2 人）より増加しました。感染国はインドネシア（3 人）、ベトナム（2 人）が多くなっています。エムポックスはタイでの感染が 1 人、レプトスピラ症はフィリピンでの感染が 1 人報告されています。